年度末報告書（資金分配団体）

● 提出日　：2022 年 4 月 30 日
● 事業名　：子どもの未来のための協働促進助成事業～不条理の連鎖を癒し、皆が共に生きる地域エコシステムの共創～
● 資金分配団体　：認定特定非営利活動法人エティック
● 新型コロナウイルス対応緊急支援助成（通常枠での追加助成）の有無　：　☑有　□無

1　実績値

【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況＊
①採択地域の子どもの支援者（家族・関連組織・市民等）のネットワークが形成	①ネットワークされている支援者の数（必要な支援者が含まれているか） ②ネットワークされている支援者の質（信頼関係等）	①各地域・領域における必要な支援者がネットワークに参画されている ②ネットワークに参画している支援者による協働のプラットフォームが創出され、信頼関係が構築されている	2021/03/01	①ネットワークの形は様々だが、実行団体のうち 4 団体が地域内の重要なステークホルダー（官民）へのリーチや巻き込みを進め、参画が広がっている。 ②実行団体によって差が見られるが、各組織のリーダー同士の関係は深まり、官民共同のプラットフォームの中でも本音を伝え合う関係性ができ、新しい連携/協働事業も 4 団体で生まれた。	1
②子どもの課題に関する共通理解や意識の変化が進む	①定量・定性データに基づき、課題の構造が	①定量・定性データに基づき、課題の構造が適切に理解できている状	2022/03/01	①実行団体のうち５団体で、自団体内での課	2

	適切に理解できているかどうか（調査レポートの有無、理解度など） ②課題の構造について、異なる立場の支援者間で共有されているか	態（当初は完璧でなくとも、適切な仮説の把握であれば良い） ②課題の構造について、異なる立場の支援者間で共有されている状態		題構造の理解に関する取り組みを行い、また独自の調査などを行っている。 ②調査結果や日頃の活動の学びをもとにネットワーク等の関係者内での共有と議論、対外的な情報公開をしている事例もある。支援者間の共通の構造理解はチェンジエージェントからの提示等が５団体で始まっている。	
③子どもの課題の解決に向けた共通ビジョンの形成	①子どもの課題の解決に向けた有効・適切なビジョンが存在するかどうか ②ビジョンが関係者間で共有されているかどうか	①子どもの課題の解決に向けた有効・適切なビジョンが存在する ②ビジョンが関係者間で共有されて、オーナーシップが育まれている	2022/03/01	①ステークホルダー間の対話を通じて、ビジョンの言語化とオーナーシップの醸成プロセスの最中の団体も４団体あるが、５団体がネットワーク内のワーキンググループや特定の協働事業の中でのビジョン形成を行っている。なお、必ずしもネットワーク全体でのビジョンをつくることは適切ではない。 ②チェンジエージェント内等コアメンバー内では少しずつより具体化し、オーナーシップが育まれ	2

				つつある。	
④子どもの課題の解決の進捗をモニタリングするため適切な測定指標の合意と、モニタリングの実施	①課題認識や共通ビジョンを踏まえた適切な測定指標の合意 ②モニタリングのための仕組みの構築 ③指標の達成に対する責任の共有（Shared Accountability）	①課題認識や共通ビジョンを踏まえ適切な測定指標が合意されている ②モニタリングのための仕組みが構築されている ③指標の達成に対する責任が共有されている	2022/03/01	①②③いずれも、アウトプット③のネットワーク全体のビジョン等を定めている最中のため、3 団体にて進めている状況。 一方、ネットワーク内のワーキンググループや特定の協働事業での範囲で測定指標やモニタリングの仕組みづくりは始まっている。	2
⑤協働プロセスにおける PDCA サイクル：評価・学習が行われ、それぞれの活動が適切に調整・見直しされ、必要な連携が起きる状態	①共通ビジョンや測定指標に基づく評価・学習が適切なタイミングで行われているかどうか ②それぞれの活動が適切に調整・見直しされ、必要な新しい取り組みや連携が計画・合意されているかどうか	①共通ビジョンや測定指標に基づく評価・学習が適切なタイミングで行われている ②それぞれの活動が適切に調整・見直しされ、必要な新しい取り組みや連携が起きている	2023/03/01	①アウトプット③のネットワーク全体のビジョン等を定めている最中のため、3 団体にて進めている状況。 一方、ネットワーク内で目的に応じた定期的な会議体が重層的に開催されており、評価・学習の仕組みは動き始めている。 ②4団体で起きている。ワーキンググループや会議体での学びや構想の持ち寄りがあり、また安心安全な関係醸成ができているため、相互の取り組みの軌道修正や	2

				分担に影響・連携や協働事業化につながる。 今後は、よりネットワーク全体での戦略的な学習と、必要な連携が起こることを期待。	
⑥深刻で不条理な状況にいる子どもにとって好ましい変化をもたらすように、既存の活動の改善や新しい活動への取り組みがなされている	①学習プロセスを通じて、新たに始まった取り組みがあるかどうか ②学習プロセスを通じて、既存の活動に何らかの改善が見られたかどうか	①新たなサービスが開発・展開されている ②既存の活動が何らかの形で改善・見直されている	2023/03/01	①5団体で、ネットワーク内外の官民主体との何らかの新しいサービスや取り組みが始まっている。 ②①同様、改善されている。 ①②の結果、子ども等にとって好ましい変化につながるかの振り返りや学習が今後なされることを期待。	2

【非資金的支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況＊
①「チェンジ・エージェント機能（主に実行団体が担う。適宜他の協働主体も含む）」と資金分配団体のコミュニケーションが深まる	①常時あるいは定期的なコミュニケーションがある実行団体の数 ②常時あるいは定期的なコミュニケーションの質	①定期面談や現地訪問などを通じたコミュニケーションが行われている ②定期面談や現地訪問などで、事業進捗と共に、地域エコシステム醸成に向けた実行団体の課題が取り扱われている	2021/03/01	①実行団体の伴走における注力ポイントについて双方で合意し、定期面談や、コロナの状況を鑑みながら現地視察、他ネットワーク全体やネットワーク内の会議体や連絡ツールの参加など	1

				を行っている。 ②①のコミュニケーションで定期的に行うと共に、地域エコシステムとチェンジエージェントの成熟度合いをはかるアセスメントツール等を作成し、適宜実行団体等とのコミュニケーションにも活用している。	
②「チェンジ・エージェント機能（主に実行団体が担う。適宜他の協働主体も含む）」に対して必要なサポートが提供される	研修会の実施や助言の回数等、実行団体に対して行ったサポートの回数および質（ニーズに沿った適切な内容だったか）	実行団体の事業進捗度合いやニーズに応じて、必要なインプット（知識、ノウハウ、ネットワーク等）が提供されている	2021/03/01	実行団体のニーズに基づき、下記のようなインプットの提供を行っている。 （ネットワーク等の連絡ツールへの情報提供、会議でのコーチング、エティック等主催の研修・講座の招待、研修や勉強会、ネットワークの主要主体のセッション企画サポート、採用サポート、実行団体間の紹介など）	1
③「チェンジ・エージェント機能（主に実行団体が担う。適宜他の協働主体も含む）」が本事業終了後も持続・発展していくための資金調達面でのサポートが提供される	助言の回数やネットワークの紹介等、実行団体に対して行ったサポートの回数および質（ニーズに沿った適切な内容だったか）	実行団体の個別の課題や状況に応じて、必要なインプット（情報、ノウハウ、ネットワーク等）が提供されている	2023/03/01	各実行団体の独力で、持続的な資金調達に向けた活動や仕組みづくりを行っており、成果が多数出ている。 実行団体側のサポートのニーズに応じて、適宜	2

				アドバイスや事業・経営モデルの見直しも手伝っている。	

＊進捗状況：1 計画より進んでいる 、2 計画どおり進んでいる 、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
1.達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 ☑変更なし　☐短期アウトカムの内容　☐短期アウトカムの表現　　☐短期アウトカムの指標　☐アウトカムの目標値
3.非資金的支援の活動に関する報告
実行団体向けの直接支援 ・非資金定期支援のアウトプット①②で記載した支援内容例と合わせ、子どもの権利学習会（講師：NPO 法人にじいろ CAP 代表理事の重永侑紀さん）や、実行団体担当者の悩みを題材にした実行団体間交流の企画、地域エコシステムとチェンジエージェントの成熟度合いをはかるアセスメントツールの開発などを行った ・JANPIA 様から機会頂き、プロボノマッチング（企業と同じ場に臨み、情報交換すること自体が視野を広げる経験に）、ファンドレイジング実装支援プログラム（ビジョン/ミッション/寄付戦略を洗い出すことができた）などを実行団体につないだ その他実行団体への支援の質を上げる取り組み ・本事業の目指すアウトカムに共感頂いた、さらに協働深める 2 つの実行団体に対し、追加の人員他リソース提供を始めた ・本事業メンバーの中で 1 日セッションを外部のファシリテーターと共に実施し（22 年 1 月）、助成期間最後の 1 年に向けた振り返りと戦略や体制の見直しを行った。このセッション経てコーディネーターの配置入れ替えや会議体の整理、役割分担を実施した ・コーディネーターの各実行団体への現状の見立てや伴走方針へのフィードバックの機会を 1-2 か月に 1 回以上実施した
6. 新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点

対面での打ち合わせや視察等は、先方の地域の状況や意向をふまえ設定・または直前でもリスケジュールを行った。

1　広報に関する報告

1.　シンボルマークの使用状況
☑**自団体のウェブサイトで表示している**　☑広報制作物に表示している ☐報告書に表示している　☐イベント実施時に表示している　☐その他 →「その他」を選択した場合は記載してください（自由記述）：
2.　広報
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等） なし 2.広報制作物等 **・DRIVE メディア（自社メディア）での実行団体やコレクティブインパクトに関する特集ページのうち、実行団体へのインタビュー2 件を掲載** **「子どもの未来に向けたコレクティブインパクトの実践（DRIVE メディア）」** ・どんな子どもや親でも「排除されない居場所づくり」を。小豆島子ども・若者支援機構の取り組み ・LGBTQ+の若者がありたい未来を語れる居場所を!コンソーシアム団体プライドハウス東京 3.報告書等 なし 4.イベント開催等（シンポジウム、フォーラム等） なし

④規程類の整備に関する報告

1.　規程類を web サイト上で広く一般公開していますか。
☑全て公開した　□一部未公開　□未公開 →「一部未公開」「未公開」を選択した場合の理由と公開予定日：一部手配中のものあり。5 月中に公開を完了予定。
2.　変更があった規程類に関して JANPIA に報告しましたか。
☑はい　　□いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：

⑤ガバナンス・コンプライアンスに関する報告

1.　社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。
☑はい　　□いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
2.　内部通報制度は整備されていますか。
☑はい　　□いいえ →「はい」の場合の設置方法（複数選択可）：☑内部に窓口を設置　　□外部に窓口を設置　　□ JANPIA の窓口を利用
3.　利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。
☑はい　　□いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
4.　関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか

☑はい　　□いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
5.　コンプライアンス委員会は定期的に開催されていますか。
☑はい　　□いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
6.　報告年度の内部監査又は外部監査を実施予定ですか。（実施済みの場合含む）
☑内部監査を実施　　□外部監査を実施　　□実施する予定がない →「実施する予定がない」を選択した場合の理由：

添付資料

活動の写真（画像データは 1 枚 2 MG 以下、3～4 枚程度）

エティック・かものはしチームでの中間合宿

小豆島子ども・若者支援機構でのワークショップ

松戸フィールドワーク（11 月 29 日）